

(トップページ：<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/>)

(写真は語るシリーズ：<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/PhotoEssay.html>)

(MENA イスラム圏：<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/MenaOicCountries.html>)

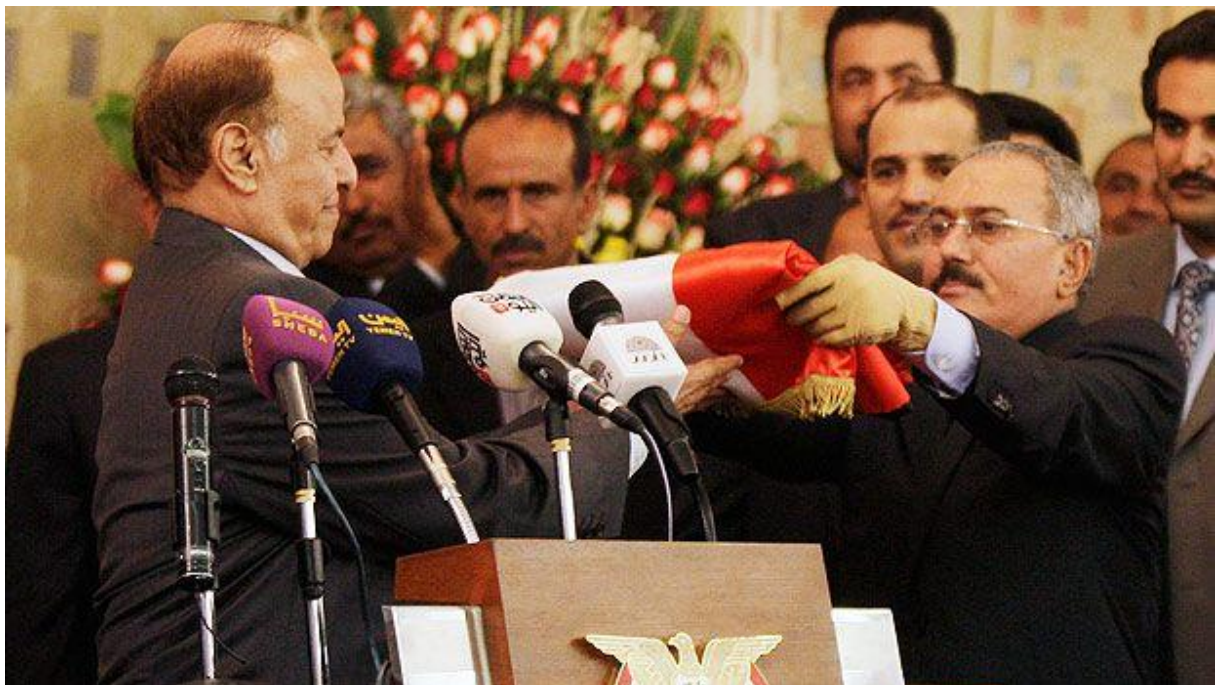
マイライブラリー：0220

(注)本稿は3月3日及び8日に「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2012.3.9

前田 高行

写真は語るシリーズ：城を明け渡しエチオピアに落ち延びるサーレハ・イエメン前大統領



上の写真は選挙で信任された Hadi 新大統領(写真左)の就任式の一コマである。サーレハ前大統領(写真右)はイエメン国旗を新大統領に引き渡して 33 年間にわたる大統領の座を明け渡した。彼は余生をエチオピアで過ごすと言われている。

ほぼ一年前の昨年 2 月、首都サナアでサーレハ大統領退任を求める若者たち数万人のデモが発生した¹。既に 1 月にはチュニジアで 23 年間にわたるベン・アリ政権が崩壊、さらに 2 月 12 日にエジプトで 29 年間の長期独裁政権を続けたムバラク大統領が辞任している。イエメンの民主活動家による反政府デモは一層勢いを増した。因みに女性活動家の一人タワックル・カルマンはこの年のノーベル平和賞を受賞している(*)。この後イエメン情勢は混迷を極めサーレハ大統領の運命は二転三転する。しかしそれは全て権力にしがみつこうとする彼自身の愚かな行動のなせる業

だったのである。

(*)「写真は語るシリーズ：ノーベル平和賞を受賞した「アラブの春」の女神」参照。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/0202NobelPrize.pdf>

当初サーレハ大統領は息子や腹心の部下が統率する軍と警察を動員してデモを徹底的に弾圧したが、デモの勢いが衰えないとみるや反政府派に和平を提案した(2月25日)²。これに対して反政府派は大統領権限を年内に移譲するロードマップ案を示したが(3月2日)³、その三日後彼はこの要求を拒否した。警察とデモ隊の衝突は激化する一方で多数の死者と負傷者が発生(3月12～18日)、3月18日、大統領はついに戒厳令を発した⁴。この頃から彼の出身部族或いは軍幹部や在外大使など身内の離反が続出したが、サーレハは自分が辞任すればイエメン国内は混乱し内戦状態に陥るという理屈で大統領職を手放さなかった⁵。

そこにはサーレハのしたたかな戦略を見ることができる。この頃リビアではカダフィ政府軍とトリポリの反政府軍が激しい戦火を交え、またバハレーンでも非常事態宣言が出されるなどアラブ各国に内戦が広がっていた。イエメンの場合、内戦になれば北部山岳地帯の諸部族、南部の旧南イエメン共産ゲリラの残党、都市部の民主勢力がそれぞれ勝手な権力闘争を始め、その間隙を縫ってイスラム過激派「アラビア半島のアル・カイダ」が暗躍する。そうなればイエメンは收拾のつかない混乱に陥るのは必至である。このような事態を恐れているのは隣国のサウジアラビアだけではない。米国にとってもアル・カイダが息を吹き返すことは阻止したい。サウジアラビアも米国もサーレハの退陣を望んでいるものの、イエメンが無政府状態になることを恐れジレンマに陥った。サーレハ大統領はそれを見透かして居直ったのである。

4月に入りサウジアラビアを中心とするGCC(湾岸協力会議)が調停に乗り出した(4月21日)。この調停案はサーレハが平和裏に大統領職を譲れば見返りとして彼に過去の罪を問わない免責特権を与える、というものであり彼にとっても決して悪い話ではなかった⁶。反政府側はこの調停案に署名したが、サーレハは口先で調停案受け入れの意思を示しただけでのりくらしとした態度に終始し結局署名を拒否した(5月22日)⁷。この結果、両派の抗争はエスカレートし、ついに6月3日、大統領官邸内で爆弾テロが発生、大統領が重傷を負うという事態に発展した⁸。

6月3日金曜日、サーレハ大統領が官邸内のモスクで金曜礼拝を行っていたまさにその時爆破事件が発生した。当初外部からロケット砲が撃ち込まれたと報道されたが、その後、爆弾が予めモスク内に仕掛けられていたことが判明した。大統領は全身に火傷を負い生命が危ぶまれたが、余程の強運の持ち主なのであろうか一命を取り止めた。ただイエメンでは十分な治療ができないため、直ちにサウジアラビアのリヤドに移送された⁹。彼はリヤドの病院に2カ月以上入院し、その後さらに一カ月半の療養生活を送った後、9月23日にイエメンに帰国した¹⁰。実に100日以上イエメンを留守にしたのであった。

その間にも本国では反政府活動は一向に収まらず、反政府勢力が政権移行評議会を樹立してサーレハ大統領の退陣を迫ったのである。普通なら内戦に近い状態の国の独裁者が3カ月以上も自

国を留守にすれば政権が転覆してもおかしくないはずである。このことから彼が逆に 30 数年かけて築き上げた権力基盤が盤石のものであることが証明された。

平穏な権力移譲を願って調停に乗り出していた GCC としては、リヤド滞在中に彼が心変わりして大統領を辞任することを期待していたはずである。GCC の盟主であるサウジアラビアに特にその意向が強かったと思われる。しかしサーレハ自身は健康が回復するや否や病室から本国向けに TV 放送を行い、また退院後の 8 月 15 日には帰国の意思を表明するなど権力に執着する姿勢を変えなかった(*)。そのことはむしろ反政府派を結束させる結果となり、同月 17 日に国民評議会が結成され、政権打倒を叫ぶ抗議デモと治安部隊が衝突、死者 26 人を出す惨事も発生した(9 月 18 日)。しかし不死鳥のごとくよみがえったサーレハ大統領は 9 月 23 日緊迫する首都サナアの飛行場に降り立ったのである。

(*)サーレハの治療・帰国問題については「写真は語るシリーズ：『I shall return!』イエメン大統領の帰国問題に悩むサウジアラビア」参照。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/0195YemenSaleh.pdf>

サーレハは 1942 年に北イエメン(当時)に生まれており今年 70 歳になる。軍士官学校で学び軍歴を重ね、1978 年には北イエメン共和国の第 6 代大統領に任命された。当時のイエメンは南北に分かれていたが南イエメンはソ連(当時)の崩壊により衰退、1990 年に南北イエメンは統一して現在のイエメン共和国となり北イエメンのサーレハ大統領が統一共和国の初代大統領に就任した。このようにして彼は北イエメン時代を含め 33 年間も大統領の座に居座ったのである。

リヤドから本国に舞い戻ったサーレハは、大統領選挙を繰り上げ実施すると言ってみたり(9 月 25 日)¹¹、数日中に退陣する(10 月 8 日)¹²などの言辭を弄して最後のあがきを見せたが、今や彼の言葉を信じる者は誰もいなかった。11 月 23 日、サウジアラビアのリヤドでアブダラー国王の立ち会いのもと、サーレハと反政府代表との間で権力を譲る覚書がとりかわされた。そして大統領代行に副大統領の Hadi が指名された。彼が最後に出した退陣の条件は大統領在任中の行為に対する訴追免責特権であった¹³。彼は転んでもただでは起きない。免責特権に反対する若者たちの声はサーレハ退陣を最優先する部族長など既成勢力にかき消された。12 月 7 日には反政府派リーダーを首班とする暫定内閣が樹立された¹⁴。

今年に入り新政府はサーレハが治療のため米国に行くことを許可した。1 月 22 日、彼は隣国のオマーンに短時間滞在した後、米国へ向かった。オマーン滞在の理由について種々憶測が流れたが、彼がオマーン政府に亡命の受け入れを要請したらしいと言うのが衆目の一致するところである¹⁵。しかしオマーン政府はこれを断った。亡命後、本国の残存勢力をリモートコントロールして復権を狙う彼の意図が見え見えだったからである。オマーンは爆弾を抱え込みたくなかった。

こうしてサーレハは 2 月 28 日、新大統領の就任式に出席し、正式に大統領の座を明け渡したのである。オマーンでの亡命生活を果たせなかった彼は遠いエチオピアに落ち延びようとしている。彼は果たしてエチオピアで配所の月を眺めながら悲嘆の余生を過ごすのであろうか。1942 年生ま

れのサーレハは今年 70 歳。同じ年に生まれたリビアのカダフィは昨年殺され、14 歳年上のエジプトのムバラクは現在裁判にかけられている。33 年間も権力を握り続けたサーレハが簡単に権勢の甘い蜜を捨て去るとも思えない。

そう思ってもう一度冒頭の写真を眺めると、サーレハの能面のような表情が一癖も二癖もある不敵な面構えにも見えるのは思い過ごしであろうか。時あたかもイエメン南部ではアル・カイダが正規軍の基地を襲撃し 200 人近い兵士が惨殺された¹⁶。しかもこの事件の背後には新政権に左遷された親サーレハ元司令官がいるのではないかと噂されている(3 月 5 日)¹⁷。イエメンの国内情勢は混迷の度を深めている。

今、サーレハが何を思っているか誰も彼の心の奥を推し量ることはできない。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

¹ Arab News on 2011.2.4, 'In Yemen, thousands demand Saleh quit now'

<http://arabnews.com/middleeast/article250713.ece>

² Arab News on 2011/2/26, 'Saleh extends olive branch as protesters vow to press on'

<http://arabnews.com/middleeast/article285272.ece>

³ Arab News on 2011/3/3, 'Yemen opposition hands Saleh transition road map'

<http://arabnews.com/middleeast/article295474.ece>

⁴ Arab News on 2011/3/19, 'Snipers kill 46 Yemeni protesters; state of emergency declared'

<http://arabnews.com/middleeast/article321858.ece>

⁵ Arab News on 2011/3/21, 'Saleh raises specter of civil war'

<http://arabnews.com/middleeast/article325587.ece>

⁶ Arab News on 2011/4/22, 'GCC draws road map for Saleh's departure'

<http://arabnews.com/middleeast/article369470.ece>

⁷ Arab News on 2011.5.23, 'GCC suspends mediation in Yemen after Saleh refuses to sign deal'

<http://arabnews.com/middleeast/article422177.ece>

⁸ Arab News on 2011.6.4, 'Saleh injured in rocket attack'

<http://arabnews.com/middleeast/article447888.ece>

⁹ Arab News on 2011/6/5, 'Saleh now in Riyadh for treatment; VP is acting president'

¹⁰ Arab News on 2011/9/24, 'President Saleh returns to Yemen amid gunfire, blasts'

¹¹ Arab News on 2011/9/26, 'Saleh calls for early polls'

¹² Arab News on 2011/10/9, 'Saleh says he'll step down in the coming days'

¹³ Khaleej Times on 2011/11/24, 'Saleh signs power transfer deal'

¹⁴ Arab News on 2011/12/8, 'VP announces new Yemen unity govt'

¹⁵ Arab News on 2012/1/23, 'Yemen's Saleh leaves for US, opponents protest'

¹⁶ Arab News on 2012/3/6, 'Al-Qaeda militants parade captured Yemen troops'

¹⁷ Arab News on 2012/3/7, 'Yemen reels from army's defeat by Al-Qaeda'